

Press Release

報道関係者各位



107-6011 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル11階
TEL : 03-5545-3302 FAX : 03-5545-3305
ホームページ www.ssf.or.jp

「笹川スポーツ研究助成」2014年度37件 総額2,516万円の助成決定のお知らせ

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する公益財団法人笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区赤坂 理事長:小野清子 以下:SSF)は、日本のスポーツ振興に貢献する優れた人文・社会科学領域の研究活動を支援する助成制度『笹川スポーツ研究助成』の2014年度採択研究を決定しました。本年度は、全国から147件の申請があり、学識経験者などで構成する選考委員会による厳正なる選考を経て、37件(総額:25,158,200円)が決定いたしました。

2014年度笹川スポーツ研究助成 採択件数ならびに助成総額

| 研究テーマ | | 応募件数 | 採択件数 | 助成額 |
|-----------------------|------|------|------|-------------|
| ①スポーツ政策に関する研究 | 一般研究 | 21 | 4 | 7,796,000円 |
| | 奨励研究 | 25 | 8 | |
| ②スポーツとまちづくりに関する研究 | 一般研究 | 20 | 5 | 6,226,200円 |
| | 奨励研究 | 14 | 4 | |
| ③子ども・青少年スポーツの振興に関する研究 | 一般研究 | 37 | 8 | 11,136,000円 |
| | 奨励研究 | 30 | 8 | |
| 合計 | | 147 | 37 | 25,158,200円 |

■主な採択研究——対象者の氏名・研究テーマについては、2枚目以降の「採択研究一覧」をご覧ください。

◆「2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を見据えたスポーツ政策の理念的モデルの検討」(フェリス学院大学 教授 和田浩一氏) ◆「身体という視点から『体罰』問題にアプローチする可能性」(明星大学 助教 坂本拓弥氏) ほかに

『笹川スポーツ研究助成』とは、2011年度に創設した助成制度です。スポーツに関する人文・社会科学領域の研究活動を支援し、わが国のスポーツ政策に関する議論を活性化させることを目的としています。募集のテーマは、①スポーツ政策に関する研究、②スポーツとまちづくりに関する研究、③子ども・青少年スポーツの振興に関する研究の3つとなります。2012年度から、助成額が上限100万円の「一般研究」とは別に、39歳以下の若手研究者を対象とした、助成額上限50万円の「奨励研究」の枠も設けて募集を行いました。

笹川科学研究助成および笹川スポーツ研究助成 「研究奨励の会」を開催いたしました。

日本科学協会主催「笹川科学研究助成」は、笹川スポーツ財団主催の「笹川スポーツ研究助成」と並ぶ、日本財団の助成事業です。1988年以降、人文・社会科学および自然科学分野(医学を除く)の研究に対する助成を実施してきました(2014年度の採択件数/321件、助成金額/200,400,000円)。分野を超えたより多くの研究者との交流を通じ、互いの研究発展に寄与することを目的に4月25日、「研究奨励の会」を共同開催しました。(於:ANA インターコンチネンタルホテル東京)

2012年度笹川スポーツ研究助成採択研究 研究成果が国の政策に反映!

復興庁復興推進委員会がまとめた政策方針『「新しい東北」の創造に向けて(中間とりまとめ)』に、2012年度の本研究成果*が反映されました。この方針は2013年6月に公表、復興庁HPでも確認できます。

※ 山梨大学 教授 中村和彦氏「低レベル放射線下における幼児の体力・運動能力、運動習慣等の現状と、その向上・改善のための取り組みに関する研究」

■お問い合わせ先 ■ 笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究助成担当:工藤・山田・高橋
TEL:03-5545-3303 grant@ssf.or.jp



笹川スポーツ財団 (SSF) は「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進している公益財団法人です。



テーマ1. スポーツ政策に関する研究

| 都道府県 | 名前 | 所属機関名称 | 職名 | 研究タイトル | 助成額 |
|------|--------|-----------|-----|--|-----------|
| 神奈川県 | 田中 暢子 | 桐蔭横浜大学 | 准教授 | パラリンピック・選手会の意義・役割に関する国際比較研究 -アスリート・ファーストが強調される現代における選手会の機能と政治力- | 1,000,000 |
| 神奈川県 | 和田 浩一 | フェリス女学院大学 | 教授 | 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を見据えたスポーツ政策の理念的モデルの検討 -IOC会長辞任直後のピエール・ド・クーベルタンによる教育改革の分析を通して- | 1,000,000 |
| 山口県 | 渡 正 | 徳山大学 | 准教授 | 1964年パラリンピック東京大会の遺産に関する社会学 -障害者スポーツ草創期を生きた人びとのライフストーリーから- | 951,000 |
| 福岡県 | 香月 あすか | 産業医科大学 | 助教 | 運動習慣はうつ病患者の社会復帰を成功させるか | 1,000,000 |

テーマ2. スポーツとまちづくりに関する研究

| 都道府県 | 名前 | 所属機関名称 | 職名 | 研究タイトル | 助成額 |
|------|-------|----------------|----------------|--|-----------|
| 北海道 | 石澤 伸弘 | 北海道教育大学 札幌校 | 准教授 | 地域振興策としての「スポーツ合宿地」の現状と可能性についての実証研究 -北海道内の実施市町村に着目して- | 880,000 |
| 千葉県 | 谷津 祥一 | 順天堂大学大学院 | 大学院生 (博士課程) | ノルディックウォーキングによるまちづくり再考 -第1回ポールdeウォーク全国大会を開催する志木市に着目して- | 695,000 |
| 石川県 | 田島 良輝 | 金沢星稜大学 | 准教授 | 自立・持続経営を担保する総合型地域スポーツクラブのマーケティングに関する研究 -クラブ会員の商圏把握と会員満足度モデルの構築- | 975,000 |
| 大阪府 | 船越 達也 | 大阪国際大学 | 専任講師 | スポーツの再社会化促進イベントが地域の「まちづくり」に及ぼす影響に関する実証的研究 -高校ラグビーOB大会による地域活性化スポーツイベントとしての開催効果に着目して- | 697,200 |
| 埼玉県 | 秋吉 遼子 | 東京国際大学 | 客員講師 | 地域住民におけるスポーツツーリズムの効果の認知に関する研究 -持続可能なスポーツツーリズムを目指して- | 1,000,000 |

テーマ3. 子ども・青少年スポーツの振興に関する研究

| 都道府県 | 名前 | 所属機関名称 | 職名 | 研究タイトル | 助成額 |
|------|-------|-----------------|------|---|-----------|
| 山形県 | 鈴木 和弘 | 山形大学 | 教授 | 幼少年期(3~15歳)の子どもの体力特性とライフスタイルとの関連に関する横断的研究 -地域特性を活かした子どもの体力向上と望ましいライフスタイルづくりへの取り組み- | 1,000,000 |
| 東京都 | 大石 健二 | 日本体育大学 | 准教授 | 震災ならびに震災復興による社会および家庭環境変化が幼児の運動能力に及ぼす影響 -東日本大震災ならびに津波の被災地である陸前高田市を対象として- | 998,000 |
| 神奈川県 | 内田 匡輔 | 東海大学 | 准教授 | 発達障害のある児童・生徒へのアダプテッド・スポーツの実践と評価 -多様な支援を必要とする児童・生徒への体育・スポーツ活動の実施と記録- | 802,000 |
| 山梨県 | 中村 和彦 | 山梨大学大学院 | 教授 | 低線量放射線環境下にある幼少児の体力・運動能力向上のための取組に関する縦断的研究(2) | 1,000,000 |
| 滋賀県 | 永浜 明子 | 立命館大学 | 准教授 | 障がいのある子どもの運動能力に対する保護者の評価 -運動の実施・継続促進に向けて- | 1,000,000 |
| 滋賀県 | 大塚 光雄 | 立命館大学 | 特任助教 | 中学校体育授業における教材「ハイジャンハードル走」開発とその有効性の検討 | 700,000 |
| 京都府 | 長野 真弓 | 京都文教大学 | 准教授 | 中学生の体力・スポーツ活動と精神的回復力との関連性の検討 -中学生版精神的回復力尺度の開発とその応用- | 998,000 |
| 京都府 | 来田 宣幸 | 京都工芸繊維大学 大学院 | 准教授 | 「教育活動としての部活動」を実現するための指導プログラムの開発 -学習指導と生徒指導の観点から- | 1,000,000 |

テーマ1. スポーツ政策に関する研究

| 都道府県 | 名前 | 所属機関名称 | 職名 | 研究タイトル | 助成額 |
|------|--------|---------------|-------------|--|---------|
| 東京都 | 坂本 拓弥 | 明星大学 | 助教 | 身体という視点から「体罰」問題にアプローチする可能性 | 460,000 |
| 東京都 | 北 徹朗 | 武蔵野美術大学 | 准教授 | 成人女性における運動・スポーツの開始・継続・再開の要因に関する基礎的研究 | 499,000 |
| 東京都 | 清水 聖志人 | (公財)日本レスリング協会 | プロジェクトマネージャ | 大学生トップアスリートにおけるキャリア形成プログラム開発へ向けた縦断的検討 | 497,000 |
| 東京都 | 小林 裕央 | 東京大学大学院 | 博士研究員 | 障害者のサクセスフルエイジングに対するスポーツの可能性に関する実態調査 | 496,000 |
| 神奈川県 | 石井 十郎 | 神奈川大学 | 教務補助員 | スポーツ推進計画の地域特性を高めたネットワーク・ガバナンスと施策決定の合理性 | 495,000 |
| 兵庫県 | 佐々木 里菜 | 神戸大学大学院 | 大学院生(修士課程) | 日本とニュージーランドの子どもスポーツ政策とその政策評価に関する国際比較研究 | 500,000 |
| 兵庫県 | 先森 仁 | 神戸大学大学院 | 大学院生(修士課程) | 歩行を目的としたツアーが人工関節置換術後の患者の運動ステージに及ぼす影響に関する研究 | 399,000 |
| 福岡県 | 萩原 悟一 | 日本経済大学 | 専任講師 | スポーツチームにおけるソーシャルサポートと心身の健康に関する日米比較 | 499,000 |

テーマ2. スポーツとまちづくりに関する研究

| 都道府県 | 名前 | 所属機関名称 | 職名 | 研究タイトル | 助成額 |
|------|--------|-----------|------------|--|---------|
| 茨城県 | 渡邊 瑛季 | 筑波大学大学院 | 大学院生(博士課程) | 首都圏外縁農山村地域におけるスポーツ合宿地域の成立システム | 500,000 |
| 神奈川県 | 岩月 基洋 | 慶應義塾大学大学院 | 大学院生(博士課程) | スポーツミュージアムの運営マネジメントに関する研究 ーコミュニティの拠点としてのミュージアム運営ー | 500,000 |
| 兵庫県 | 山口 志郎 | 流通科学大学 | 専任講師 | 市民マラソンのイベント効果が地域住民のイベントサポートに及ぼす影響 ープリ・ポスト調査を用いた比較分析ー | 500,000 |
| 兵庫県 | 肥後 梨恵子 | 神戸大学大学院 | 大学院生(博士課程) | 都市部の公園を活用した高齢者の運動グループがコミュニティを形成するプロセスに関する研究 ー公園を活用した健康づくり活動(公園体操)の構成と二次的な活動に着目してー | 479,000 |

テーマ3. 子ども・青少年スポーツの振興に関する研究

| 都道府県 | 名前 | 所属機関名称 | 職名 | 研究タイトル | 助成額 |
|------|--------|-----------|------------|--|---------|
| 北海道 | 青木 康太郎 | 北翔大学 | 准教授 | 自然体験活動指導者の安全管理能力向上に関する基礎的研究 | 497,000 |
| 東京都 | 遠藤 伸太郎 | 中央大学 | 教育技術員 | アスリートの競技力向上および人としての成長を促す ポジティブ心理学からのアプローチ ー謙虚な思考に注目してー | 332,000 |
| 東京都 | 千葉 洋平 | 国士舘大学 | 助手 | 中学生のwell-beingとスポーツ実施の関連 ー特にソーシャルキャピタルや保護者の意識との相互関連性を視点としてー | 489,000 |
| 東京都 | 川田 裕次郎 | 東京未来大学 | 講師 | 児童の運動参加を促進するための相対的年齢効果に関する研究 | 500,000 |
| 兵庫県 | 高松 祥平 | 神戸大学大学院 | 大学院生(修士課程) | 高校野球における監督のコンピテンシーが選手の動機づけに及ぼす影響 | 500,000 |
| 兵庫県 | 島本 好平 | 兵庫教育大学大学院 | 助教 | 大学柔道実践者におけるライフスキルと競技成績との関連 | 420,000 |
| 兵庫県 | 萩原 大河 | 神戸大学大学院 | 大学院生(修士課程) | リズムダンスにおける児童の動機づけの研究 ー自走型スクリーンを用いてー | 400,000 |
| 広島県 | 渡辺 泰弘 | 広島経済大学 | 助教 | 子どものスポーツ習慣形成に関する研究 ー保護者の消費動向と意識に着目してー | 500,000 |